

最善の終末期医療とは？

医療マネジメント学会 福島支部学術集会



「看取りの臨床を考える」をテーマに開かれたシンポジウム

東北病院院長）があいさつしました。

この後、A会場（NABEホール）とB会場（中央棟4階大講堂）に分かれて一般演題の発表が行われました。A会場は「患者支援」「医療安全」「感染対策」、B会場は「業務改善」「チーム医療」「医療安全」のテーマで研究成果が披露されました。

日本医療マネジメント学会の第10回福島支部学術集会は「アドバンス・ケア・プランニング（Advance Care Planning）」をテーマに6月15日（土）、郡山市の総合南東北病院北棟1階NABEホールで開かれ、人生の最終段階を迎えた患者さんにとって最善の医療・ケアとは何かを学び合いました。

総合南東北病院からは「患者支援」でリハビリテーション科の早尾啓志さんが「就労のある男性のがんリハビリテーションの経験」、医療相談課の社会福祉士・熊谷幸広さんが「生活の本拠に住民登録をしていない患者への退院支援」、「感染対策」で寺西院長が「当院で経験したKPC型CRE院内感染について」と題して発表しました。

終末期になった患者さんの今後の治療・療養を本人や家族とどのように話し合っていくべきかを一つの事例を想定し考えました。白河厚生総合病院総合診療科部長の東光久氏、総合南東北病院外科医の佐藤直氏が座長兼シンポジストを務め、客席の参加者とも意見を交えました。今回は須賀川市の公立岩瀬病院が事務局を担当します。

子どもの夏かせき 感染に注意を！

夏は手足口病、ヘルパンギーナ、プール熱といった夏かぜが子どもにも多くみられます。手足口病は手、足、口に小さな水泡ができ、集団感染が広がりやすい病気です。ヘルパンギーナは、のどに水泡や炎症が起こる病気で、39度前後の急な発熱があります。プール熱は、プールの水を介して感染することが多く、急な発熱、のどや目に炎症を伴う症状が特徴です。

夏にこれらの病気が起こるのは、アデノウイルス、エンテロウイルス、コクサッキーウイルスなどのウイルスが活発に活動するからです。これらのウイルスは腸で増殖する性質がありますが、特效薬がないので、対処療法をしながらウイルスが体外に排出されて症状が治まるのを待つ必要があります。このときの下痢はウイルスを輩出するための自然な防御反応なので、安易な下痢止めの使用は避けるべきでしょう。ただし、夏は健康であっても脱水症状を引き起こしやすい季節ですから、下痢によって過度に水分が失われるのはよくありません。下痢が酷い場合は、すぐに医師に相談してください。

顔面・眼瞼けいれん外来 (ボトックス外来)

南東北第二病院

「こちら専門外来」⑥

「顔の片方がびくつく」「目のまわり（眼瞼）がびくつく」「脳卒中後で手足のつっぱりが強い」といった症状を持っている方はいませんか。このような症状がある場合は、顔面・眼瞼痙攣（けいれん）や痙縮（けいしゆく）の可能性があります。

症状がひどくなると、片側あるいは両側の眼がほとんど閉じた状態になり、テレビが見にくくなったり、新聞が読みにくくなったりします。また、曲がったように見えることもあります。手足のつっぱりは日常生活の動作を不自由にします。原因は様々です。

治療はボツリヌス毒素を局所に注射する方法があります。ボツリヌス毒素と聞くと、恐怖感をもつ人もいるかもしれませんが、治療に用いる量では全身性の副作用の報告はわずかです。顔面・眼瞼痙攣、痙縮でお悩みの方はご相談にお越しく下さい。お役に立つことができるかもしれません。

【診療日】 隔週火曜日

【担当】 久保仁先生
(南東北第二病院神経内科科長)

【電話(予約専用)】 フリーダイヤル
0120 - 14 - 5420